

富士山ガイダンス 2017 の概要

1. 目的

富士山ガイダンスは、富士山の安全登山について広く登山者への普及を図るため、富士登山のツアーを企画している旅行会社、登山ガイドブックの出版社やWEBサイトの運営者、登山ガイド等の富士山の登山者に対して情報提供を行っている団体等を対象とした説明会として、平成24年から毎年1回、過去5回開催してきた。その結果、参加者のアンケート結果では満足度は高く、特に講師による講演は評価が高い。また、富士山における適正利用推進協議会が作成し普及を図っている登山ルートの色分けや弾丸登山の自粛等の取組、そのほか普及ビデオや富士登山オフィシャルサイトの紹介等により、登山者への情報の統一や装備の徹底などに効果をあげてきた。

一方、弾丸登山や装備不備による安易な登山は未だに後を絶たない。また、参加者はリピーターが多くを占めるようになってきており、減少傾向にある。平成27年度は、参加者からの提案も反映して一般参加者も募集したが、参加者の大幅な増大には繋がらなかった。

今後はガイダンス等に参加していない旅行会社や個人登山者等に対しても、安全で適正な富士登山の普及を図るための効果的な方策を検討し、より広く周知を図るため、対象者や参加者数を確保できる内容や実施方法について再検討する必要がある。

このような課題を踏まえ、今回のガイダンスは、対象者は従来通り登山者への情報提供機会の多い旅行会社や出版社等を対象とし、各々の知見を踏まえて今後の効果的な普及方策や内容について意見交換を行うことを目的として実施した。

2. 開催概要

開催日時：平成29年2月2日（木） 13：00～16：20

開催場所：新宿御苑インフォメーションセンター レクチャールーム

参加対象（募集人数）：登山ツアーを企画・催行する旅行会社、登山関連の出版社やWEBサイト運営者、登山用品・スポーツ用品店、登山ガイド（計20名）

募集方法：候補をリストアップし、直接、参加を呼びかけ

参加費：無料

プログラム

【第1部】話題提供

○御嶽山噴火に遭遇して～噴火の恐怖とそこから学んだ教訓～

〔講師：小川 さゆり 氏（南信州山岳ガイド協会所属 山岳ガイド）〕

【第2部】安全登山のための取組

富士山噴火時の防災対策について〔山梨県防災担当・静岡県危機情報課〕

富士山における遭難救護の実態〔山梨県警察本部 静岡県警察本部〕

富士登山に関する情報提供と外国人登山者の実態について〔環境省箱根自然環境事務所〕

【第3部】意見交換会〔運営：(株)プレック研究所〕

進め方・ルールの説明

グループ討議

グループ討議結果の発表・まとめ

3. 参加者

4種の業種から各5名の参加を得て実施した。参加者は表-1のとおり。

参加候補者は、過去のガイド参加者から抽出するとともに、登山が初めての人が情報の入手や、装備購入の際に利用することが多いと考えられる一般的な旅行雑誌の出版社や登山用品も一部扱う大規模スポーツ用品販売店を候補に加えて募集した。なお、1社から数名が参加する会社もあったため、参加人数は20人を超えた。また、近年の外国人登山者の増加を踏まえ、訪日外国人を対象とする旅行会社や外国人向けWEBサイト運営会社も対象とした。

表-1 富士山ガイド参加者

業種	参加者所属
1) 山岳ガイド(富士山ガイド)	5社
2) 富士登山ツアーを企画する旅行会社	5社
3) 山岳雑誌等の出版社、登山・観光関連WEBサイト運営会社	5社
4) 登山用品販売業・レンタル業 (大規模スポーツ用品店含む)	5社
計	20社、24人

4. プログラム及び配布資料

「富士山ガイドンス 2017」の全体プログラムは、次のとおり。プログラムの進行は、環境省箱根自然環境事務所山岸保護官が担当した。また、意見交換会の運営は、(株)ブレック研究所が行った。

<プログラム>

13:00	開 会
13:00~13:05	主催者あいさつ 環境省箱根自然環境事務所
13:05~13:50	【第1部】話題提供 ○御嶽山噴火に遭遇して ～噴火の恐怖とそこから学んだ教訓～ 【資料1】 南信州山岳ガイド協会所属 信州登山案内人 小川 さゆり 氏
13:50~14:20	【第2部】安全登山のための取組 富士山噴火時の防災対策について 【資料2】 静岡県危機情報課・山梨県防災危機管理課
	富士山における遭難の実態 【資料3】 山梨県警察本部 静岡県警察本部
	富士登山に関する情報提供と外国人登山者の動向について 【資料4】 環境省箱根自然環境事務所
14:20~14:30	休憩
14:30~16:15	【第3部】意見交換会 【運営：ブレック研究所】 進め方・ルールの説明 【資料5】
	グループ討議
	グループ討議結果の発表・まとめ
16:15~16:20	その他情報提供
16:20	閉 会

会場にて配布した資料の種類は下記のとおり。

< 配布資料一覧 >

配布資料名	資料作成者・発表者
「富士山ガイドンス 2017」プログラム	
富士山ガイドンス 2017 資料（冊子）	
【資料 1】御嶽山の噴火に遭遇して ～噴火の恐怖とそこから学んだ教訓～	南信州山岳ガイド協会所属 信州登山案内人 小川 さゆり
【資料 2】富士山噴火時の防災対策について	静岡県危機情報課 山梨県防災危機管理課
【資料 3】富士山における遭難の実態	山梨県警察本部 静岡県警察本部
【資料 4】富士登山に関する情報提供と外国人登山者の 動向について	環境省箱根自然環境事務所
【資料 5】意見交換会について	
【参考資料】登山者に提供すべき情報	富士山における適正利用推進協議会

5. 説明内容

プログラムのうち、第 1 部「話題提供」及び第 2 部「安全登山ための取組」における説明内容は、以下のとおり。

第 1 部「話題提供」御嶽山の噴火に遭遇して ～噴火の恐怖とそこから学んだ教訓～

講師：小川 さゆり（南信州山岳ガイド協会所属 信州登山案内人）

御嶽山の概要と過去に起きた噴火の概要、2014 年に発生した噴火当時の状況等について解説があった。登山における安全確保のために必要なポイントとして、以下を挙げた。

- ・近くの隠れる場所（岩や小屋）の有無と、危険を察知し、素早く行動にでること
- ・目の前に危険が迫ると「自分は大丈夫」という思考になる傾向（正常性バイアス）と自ら判断がつかない際、周囲の判断に同調する傾向（多数派同調バイアス）が命を守る行動を遅くする。
- ・自分の命を守るためには、「100%安全ではない自然に踏み込む」という大前提となる意識の基に、噴煙を見たり、異変を感じたら即座に命を守る行動に移ること、自分の命は自分で守る事に徹し、自分で考え、判断、行動できる自立した登山者となることが重要である。

第 2 部「安全登山ための取組」について

富士山噴火時の防災対策について（資料 2）

- ・富士山噴火時避難ルートマップの作成

富士山の突発的な噴火に際し、登山者等の噴火時の避難行動や支援の目安とすることを目的としている。噴火時に避難が可能な道などを示した「既存路マップ」と、過去に発生した噴火を踏まえ、予想される火山現象の影響範囲を典型的な 10 パターンに区別し、即

時・緊急的な避難の方向を示した「富士山噴火時避難パターン(裏面)」などで構成されており、多言語(英語、中国語(簡・繁) 韓国語)に対応している。

- ・スマートフォンで利用可能な登山届専用アプリ「コンパス」の機能拡張について(静岡県)
富士山の火山活動が活発化した場合における気象庁からの緊急情報を直接かつ迅速に登山者へ伝えることを目的として、全国の山岳で利用可能な登山届専用アプリ「コンパス」の機能拡張を実施。緊急情報を受け取るためには、「コンパス」での登山届の提出が必要。
- ・スマートフォンで利用可能な「全国避難所ガイド」への掲載について(山梨県)
富士山噴火時避難ルートマップや富士山ハザードマップを「全国避難所ガイド」に掲載している。登山者や観光客は「既存道(登山道・林道)での現在地の確認や県からの災害情報の受信」が可能であり、県は「避難ルートマップやハザードマップの掲載、アプリ利用者の現在地の把握や災害情報の送信」を行う。

富士山における遭難発生の実態(資料3)

山梨県側では本年度18件、前年に比べ倍以上に急増した。静岡県側では登山者数は前年並みであったが、遭難発生は平成25年に次ぎ、2番目の多さ(74件)であった。特徴としては外国人遭難者が増えたこと、バックカントリー・スキーヤーなどが増えたことなどが挙げられる。

富士登山に関する情報提供と外国人登山者の動向について(資料4)

土休日2日間の調査において吉田ルートでは2割、富士宮ルートでは1割の登山者が外国人、平日では吉田ルートでは3割、富士宮ルートでは1割が外国人登山者であった(ともに8月下旬の調査)。居住地については国内居住が3割程度、国籍としては欧米系が4割程度を占めている。

6. 意見交換会の概要及び結果

(1) 実施方法

5人ずつ4グループに分かれグループ討議（ワールドカフェ形式*）を実施した。グループ内のメンバーは業種混合とし、20分間の意見交換×3回、途中2回メンバー入れ替えを行い、最後にグループごとに代表者が出されたアイデア（提案内容）を発表した。具体的な意見交換会の進行は下記の通り。

*: 少人数でカフェのようなリラックスした空間での話し合いを数回繰り返す。様々な意見を出し合い拡散していく場面や、出席者同士で仲良くなり盛り上がっていくような場面に適した手法。

< 意見交換会の進行 >

時 間		項 目	内 容
14:30 ~ 14:40	10分	進め方等の説明	流れ、テーマなど
14:40 ~ 15:10	25分	第1ラウンド	自由討議（意見を付箋に書き込み、模造紙に貼り付けながら話し合い）
	5分	（メンバーチェンジ）	（ホスト1~2名を残して、他のメンバーは別テーブルへ移動）
15:10 ~ 15:30	20分	第2ラウンド	ホストが第1ラウンドでの討議内容を紹介 自由討議
		（メンバーチェンジ）	（元のグループに戻る）
15:30 ~ 15:50	20分	第3ラウンド	第2ラウンドでの討議内容を共有 自由討議
15:50 ~ 16:15	25分	発表・まとめ	各グループの代表者が出された意見やアイデアを発表 講師、主催者コメント
16:15		終了	

(2) テーマ

「安全な富士登山普及のため、私たちができることを考えよう！」
 ~ 自然災害等のリスクに備えた情報を伝えるには ~
 （天候の急変、落雷、落石、噴火、高山病、等）

小テーマ

何を、いつ、どのような方法で伝えると良いか？

小テーマ

外国人や観光客には、何を、いつ、どのような方法で伝えると良いか？

小テーマ

自分たちでできること、協働でできること、行政がやるべきこと、を考えよう！

(3) 結果

4グループで出されたアイデア(提案)及びグループごとのまとめ(代表者による発表内容)をもとに主な提案をまとめると以下のとおり。

<各グループのまとめの集約結果>

下線は、参加者から印象に残った、参加したい等イチオシの取組として回答のあったもの。

テーマ	自分たちでできること	協働でできること	行政がやるべきこと
リスクに備えた情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 客のニーズに合わせたタイミング良い情報提供 各業種が客に接する場を活用してタイミング良く情報を提供 <u>〔販売店、旅行業〕事前講習の実施</u> <u>〔販売店〕接客時のリスク情報の提供</u> <u>〔出版社〕登山地図を活用した安全登山の情報発信</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 関係者からの情報収集・集約による情報発信 <u>各種業種に入ってくるリスク情報の収集と情報の一本化による SNS による発信</u> <u>モニターツアーの実施</u> モニターツアーへの参加により関係者が改善方向性を共有化 関係者が参加体験を通じたモデル的な登山の検討・普及 協働型のビジターセンターの設置・運営 公共によるビジターセンターの設置と機能の複合化による民間による運営(用品レンタル等) 	<ul style="list-style-type: none"> <u>高度な技術を利用した SNS の積極的活用による情報発信</u> 情報拡散の専門的な技術を活用 ガイドや旅行会社等による客への情報提供のノウハウを活用 噴火等災害のリアルタイム情報の発信 ツイッター等の活用 <u>装備が十分な登山者に対する五合目でのリスク情報の提供と、災害等のリスクに同意する同意書提出システムの構築(受付事務の負担軽減のため、登山人数の規制方策と併用)</u> 入山規制 <u>五合目ビジターセンター設置とビジターセンターでの登山者チェック</u> 登山定員数の設定と抽選方式による入山規制
外国人や観光客等への対応			<ul style="list-style-type: none"> <u>不特定多数に対するネガティブキャンペーンの実施</u> 空港や公共交通機関等での案内や注意喚起 入山規制 <u>外国人旅行者に対する入国時の登山確認</u> <u>観光情報と合わせたリスク情報の発信、登山以外の魅力情報の発信</u> 山麓の絶景地や御中道等上方への登山以外の楽しみ方の紹介(富士山全体の観光情報の集約と発信)、併せてリスク情報を発信

7. 参加者アンケート結果

ガイドンス終了後、「富士山ガイドンス 2017」参加者へ参加目的や満足度、これからの課題点を把握するためのアンケートを実施した。

(1) 参加の動機

- 参加者の 1/3 程度が安全な富士登山の普及に興味があり、自身の活動や営業に役立てるために参加した人は 1/4 程度であった。

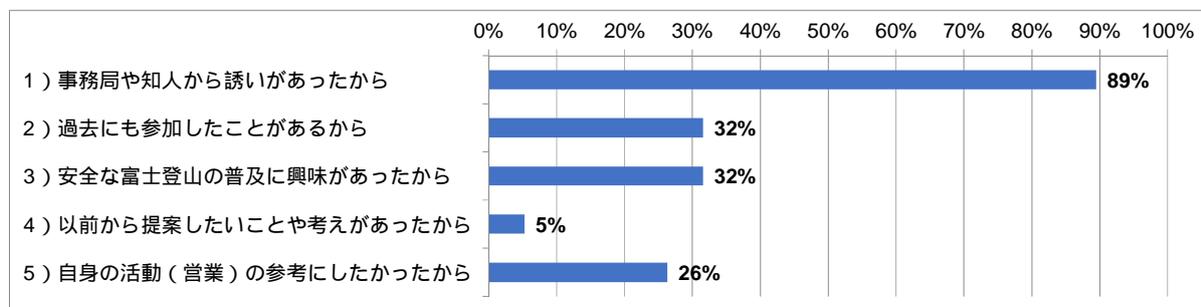


図 -1 参加目的

(2) 感想・意見

<全体 アンケート項目 1) ~ 2) について>

- 全体の進め方については 8 割以上が満足としている。一方で長さについては満足としている方が 7 割程度であった。

<第 1 部、第 2 部および資料について アンケート項目 3) ~ 6) について>

- 第一部の小川さゆり氏による御嶽山噴火体験の話題提供はほぼ全員が満足という結果であった。
- 一方、第二部については満足が低くなり、不満を感じた参加者が 1 割程度いた。具体的には安全登山のための取組について時間が短く、内容が薄いとの意見も見られた。

<意見交換会について アンケート項目 7) ~ 11) について>

- ワークショップ形式(ワールドカフェ形式)による意見交換も 8 割以上が満足。一方、テーマ設定については満足度がやや低く 6 割強となっている。
- 具体的な不満点として、テーマが漠然としていた等の意見が挙げられた。
- そのほか、せっかくの大掛かりな意見交換会にも関わらず、出された意見に対する取扱い(どのように参考にするのか)が不明確といった主旨の意見も見られた。

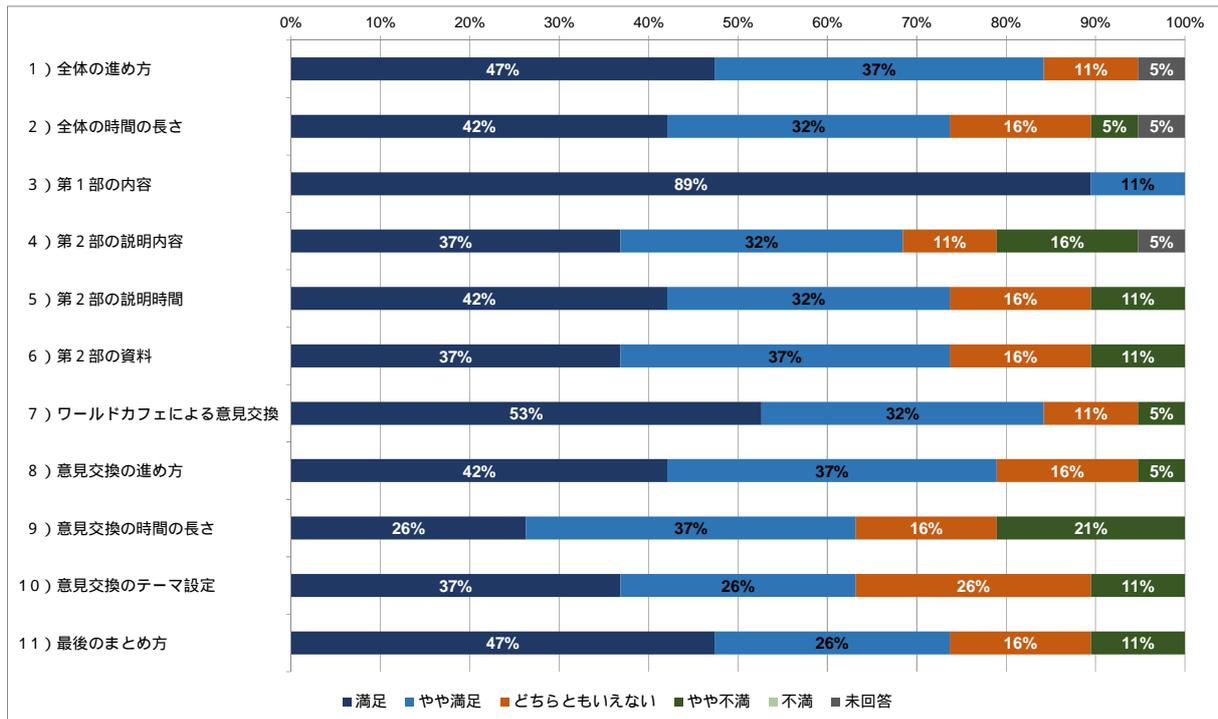


図 -2 ガイドの満足度

(3) 今後取り上げて欲しい内容

登山者数関連	・近年の登山者数の変化や登山道のキャパシティ
外国人登山者関連	・外国人登山者の現状と課題（詳しい人による話題提供）
災害等のリスク関連	・火山噴火以外の事故発生の実態（他山域での事故発生状況とその体験談） ・行政が行っている各種災害対策
利用関連	・登山以外の楽しみ方 ・夏の開山期以外の利用のあり方
その他	・今回出された意見に対する掘り下げ （観光客や外国人登山者への SNS 等による情報発信、等）

(4) グループ毎の発表とは別に印象に残った意見として挙げられたもの

自分たちでできること	・〔販売店、旅行業〕事前講習の実施 ・〔販売店〕接客時のリスク情報の提供 ・〔出版社〕登山地図を活用した安全登山の情報発信
協働でできること	・モニターツアーの実施 ・観光情報や楽しみ方情報の発信と合わせたリスク情報の発信
行政主導でやるべきこと	・ビジターセンターの設置（五合目） ・入山規制（同意書やビジターセンターでの登山者チェック） ・外国人旅行者に対する入国時の登山確認 ・HP の統一や情報の集約 ・SNS の積極的活用による情報発信 ・不特定多数が利用する空港や公共交通機関等での案内や注意喚起（ネガティブ情報含む）